



平成31年3月1日現在

総世帯数	1,427世帯
総人口	2,615人
男	1,230人
女	1,385人

### 「ボッチャ」を体験して

飯田町二丁目公民館長 村上 圭子

パラリンピックの種目である「ボッチャ」を私が知ったのは去年のこと。テレビ映像から、障害のある方が車椅子に乗って真剣な眼差しでボールを投げている様子を見たのが最初でした。ちょうどその時「カーリング」の競技のおもしろさが分かって、日本チームを夢中になって応援していたので「ボッチャ」を知った時は、衝撃的でもとても興味を持ちました。どういふスポーツなのかもつと知りたいなと思っていた矢先、今年に入って「ボッチャ体験教室」の公募があり、またとないチャンス。早速、参加しました。

体験しての感想は、実に簡単なスポーツで楽しいものでした。教室に集まった見ず知らずの人達が、その場でチームを組んで試合をしたのですが、とても盛り上がり、勝つ



とハイタッチをするほどでした。障害の有無にかかわらず、子どもからお年寄りまで、誰でも一緒に楽しめます。

ルールですが的（ジャックボール）に、どれだけ多くのボールを近づけられるかを競います。先攻がジャックボールを投げておいて、この的めがけて交互に投げ合います。六球ずつ投げたら得点を付けます。ボールの投げ方は自由。ころがしたり、放り投げてもいいです。相手のボールを的から遠ざけたり、味方のボールを利用して、的により近く

### 常盤町の道路の話

常盤町 市川 英夫

常盤町を南北に通る一方通行道路について話をしたいと思います。昔からあったかもしれませんが、この頃気になる事があります。

#### ◆ ケースその① 信号無視

町内の真ん中の交差点では今でも事故が絶えません。そこから南の信号機のある交差点で事故が最近多発していることです。何れかの車の信号無視ですが、ボートとして運転しているとチコちゃんに叱られる！

する方法もあり。「カーリング」に似ています。頭を使いながら投げ方も工夫できます。ボールにも特徴があつて、独特のころがり方をするので、そこがまたおもしろいですよ。介護要望や認知症予防によいと言われるので、シニア世代に打って付けのスポーツです。室内競技なので、少しのスペースがあればOK。皆さんも機会がありましたら是非「ボッチャ」を体験してみてください。

#### ◆ ケースその② あおり運転

前を行く車に激しいエンジン音で威嚇するように追いついて走る車、何が気にいらぬのか、見ている歩行者はその爆音で恐怖心さえ感じる。

#### ◆ ケースその③ 逆走行

何処の交差点から侵入したかわからないが、だいたいの車が、常盤町通過中に「変だ」と感じ、町内の駐車場に入り耽りかすようにUターン。たまに対向車の合図も無視して駅前大通りまで行く車もあります。

#### ◆ ケースその④ ゆずらない車

救急車が来ても道路脇に停車しないで、南方に向かいひたすら走る車、挙げ句のはてに、町内南の信号で、救急車の進路妨害、この頃よくある場面です。

いずれの場合も運転手のマナーの問題ですが、その外にも解決の糸口があるかも？

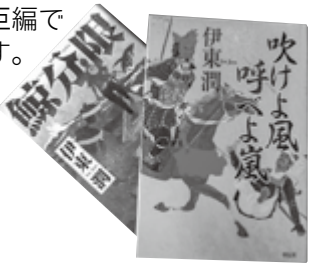


#### 余談

今年もいつの間にか常盤町にチヨウゲンボウが来ています。観察の時は付近に駐車場が有りませんので、徒歩等でお出かけください。

### 公民館図書コーナー・気になる一冊 『吹けよ風 呼べよ嵐』

『川中島合戦譚』は数多くありますが主人公を北信濃の国人、須田氏としているためでしょうか。武田信玄による信濃侵略の苦しみ、悩みを違った視点で知ることが出来ます。『巨鯨の海』、『鯨分限』の作者の伊東潤氏による歴史巨編です。



● 次回書籍入替えの7月中旬まで貸し出ししています。

# 平和への願いを語る —人権無視の軍隊—

2月24日(日)、第2地区人権啓発推進事業の講演会が行われました。講演に先立ち「コジャレ」の皆さんによるミニコンサートが開かれました。よく耳にする曲の演奏を聴いたり懐かしい唄を一緒に



歌ったりと、ホッとするひと時でした。講演会は70名ほどの方が集まり、地区外からの参加もありました。講師は向島町会にお住まいの丸山重雄さんで、御年九十二歳です。特攻隊の

体験でのお話でしたが、その内容はとても具体的でリアルなものでした。

「耐乏生活」「警沢は敵だ」「死は鴻毛よりも軽い」など当時よく使われていた言葉をご自分で書いて来られ、それを掲げながらのお話は、戦時中いかに不自由な生活を強いられ命が軽く扱われていたかが、悲しくなるほど伝わりました。また、戦闘機の模型を使って特攻訓練の様子をお話しくださるなど、視覚からも具体的にその過酷さがわかる生々しいお話でした。

戦後七十四年が経ち、戦争を知らない世代が増えた。今、このように実際に戦争を体験した方のお話を伺うことはとても貴重なことでした。平和は決して当たり前のことでなく、七十五年前は死の恐怖と闘いながら日々過ごしていた方々がいたこと、そして今の平和があることなど、いろいろと考えさせられた一日でした。

会場では丸山さんがお描きになったという仏画の掛け軸が、窓際にたくさん掛けられています。慈母観音様の優しいまなざしが今も印象深く残っています。



## 松本市公民館活動

### 推進功労者感謝状贈呈

2月17日(日)、松本市中央公民館(Mウイング)で行われた「第34回公民館研究集会平成30年度地域づくり市民活動研究集会」で、長年第二地区公民館活動にご尽力いただいた方へ、公民館活動推進功労感謝状が贈呈されました。

- 赤穂 治人 …… (13年)  
図書視聴覚委員
- 碓屋 公章 …… (12年)  
図書視聴覚委員
- 小穴 隆一 …… (13年)  
図書視聴覚委員・文化委員
- 佐藤 文彦 …… (10年)  
館報編集委員
- 関口 隆男 …… (13年)  
図書視聴覚委員・運営委員
- 中島 昂 …… (8年)  
運営委員・体育委員
- 永田 洋子 …… (9年)  
図書視聴覚委員・体育委員
- 百瀬 賢志 …… (14年)  
運営委員
- 横山 善男 …… (20年)  
館報編集委員



## すずき川

2月28日は朝から雨でした。『明日から3月といっても…この時季に雨？逆に何年前かには桜の花の上に雪が降ったこともあったけど…』などと考えていた時に、フッと「雨水」という言葉が思い浮かびました。

雨水(二十四節気の一つ)。太陽の黄経が330度の時で正月の中。太陽暦の2月19日頃にあたる)とあります。続く節気は「啓蟄(蟄虫、すなわち冬ごもりの虫がはい出る意。太陽の黄経が345度の時で太陽暦の3月6日頃にあたる)とのことです。

今年はずっと暖冬でしたが、かつて冬が厳しかった昔、人々は1年を24等分して区切りとし、寒い時季には『あと幾日で立春。もう少しで春！』と待ちわびていたのだと思います。

今年3月21日が春分の日。その15日後の4月5日が「清明」。春の最後の節気の「穀雨」(春雨が降って百穀を潤す意)は4月20日です。

5月6日は立夏となつて季節を夏に着替えることになって行きます。

春の雨の日のもの思い種(井野根)でした。